

そばが縁で「食交流」

イタリア・コモ市から

研修生2人が5月まで

そばや日本料理を学ぼうと十日町市と友好交流のイタリア・コモ市から職人養成学校に通う研修生2人とコモ県調理師協会の代表ら8人が28日、十日町市役所に関口市長を表敬訪問。食によるさらなる交流を誓い合った。2人の研修生は5月



イタリアから「へぎそば交流」で訪れた職業養成学校の研修生（前列中央2人）ら

上旬までベルナティオや小嶋屋総本店、ひなの宿ちとせなどでそば打ちや日本料理を学んでいく。訪問団は、昨年10月に十日町市から「へぎそば」交流団がコモ市を訪れ、そばや日本料理を振

十日町エリア

TEL.025-755-5227
FAX.025-755-5266

(有)宮下商事

事業所 ご家庭のゴミでお困りの方、お任せ下さい。

十日町市宮下西 <http://www.miyashita-shoji.com>
TEL.75215400 FAX.75215498

は周りに広めたい」と話した。職人養成学校のシルヴィオ・ペレツリ理事は「よい経験になりました。」

す。8月末にはコモ市で成人の祭りがあるので、ぜひ日本料理を出してほしい。プースを用意しておきます」と話し、関口市長は「ぜひ参加させていたきたい」と話した。当日夜は、コモ県のシェフによるイタリア伝統料理のディナーも開いた。

戻って来てね

宮中ダムでサケ放流祭

○：「頑張ってるね」と信濃川にゆつくりとサケ稚魚を放流した。中魚沼魚業協同組合（長谷川克一組合長）とJR東日本の共催で行う「第3回サケ稚魚放流祭」は26日に宮中ダムで開き、約1・5万匹を170人余が放流。初参加で春から中里中1年生となる吉栗義斗くんは「4年後はもう高校生になりますね。どんな感じで戻ってくるか見てみたい」とサケ稚魚をゆつくりと放流していた。なお同ダムにある魚道観察室は4月20日〜11

月20日まで一般開放する。

○：昨年のサケは不漁傾向で493匹（前年1514匹）の遡上を確認した同ダム。中魚沼漁協では3年前から遡上サケから採卵し孵化させ、信濃川産サケを増やす取り組みも行っている。今期は信濃川はじめ中津川、飛渡川などで70万匹のサケ稚魚を放流。長谷川組

合長は「放流祭は年々参加者が増えており、河川に関心を持つ契機になれば」と話す。一方、JR東・信濃川発電所の岩本剛夫所長は「信濃川発電所の電気は県内や首都圏に送られ電車を動かして



苗床ハウスを建てようとして取り組む除雪作業（29日）

倉俣魂を忘れず

頑張ってくれ最高の1年間を締めくくろうと、



サケ稚魚放流祭（26日）

加者が増えており、河川に関心を持つ契機になれば」と話す。一方、JR東・信濃川発電所の岩本剛夫所長は「信濃川発電所の電気は県内や首都圏に送られ電車を動かして